

京都府青少年育成協会会長奨励賞 「人を思いやるということ」

向日市立勝山中学校 1年
加藤 小 暖



みなさんは思いやりを持って人と接していただけますか？思いやりについて考えたことはありますか？

私が小学生の時の同級生に、足に障害を持ったクラスメイトがいた。私はその子と同じクラスになることが多く、林間学習や修学旅行で班行動をする時、車イスを押ししたりするなど介助を任されることも多かった。そのため、高学年になった私は、友達と自由に行動できないもどかしさもあり、「なんで私ばかり…」と、いつしかその子のお手伝いを重荷に感じる自分がいた。手伝わなくても「ありがとう」も言ってくれない。その子にとってやってもらうことが当たり前になっているのではないかと疑問に思うこともあった。

しかしそれは、私の一方的な考えであり、その子の気持ちを全く知ろうとしていなかった。その子は心の成長がゆっくりで、私達のように感情を上手に伝えることができなかったのだ。私は外見

的な障害は理解していたつもりでも、その子の内面的な性格については全く理解しようとしていなかったのだ。

そのことに気付いた時、今までの私の行動はその子に対して思いやりを持った行動ではなかったのでは？と振り返り考え直すきっかけになった。

自分の言動がいつのまにか人を傷つけているかもしれない。そうならないためにも、相手のことをちゃんと理解してあげることが思いやりとなり、相手を大切にすることにつながると学んだ。

人と人との関わりには、対面に限らずいろいろな形がある。

最近SNSが進んだおかげで、顔が見えない相手とも情報を共有したりすることができ、とても便利だ。

しかし相手が見えないという気軽さのせいで、そこに心が存在するということを忘れてしまい、相手の心を無視した言動も増えている。軽はずみに悪気がなくてもいつのまにか相手を傷つけてしまう危険性もある。

顔が見えないSNSの世界であっても、人の心は存在する。中にはとても繊細な心の持ち主もいるだろう。相手の顔や性格や人柄、何も知らないのに自分の考えだけを押し付けたり相手の人間性を理解していない言動は、思いやりとはかけ離れた自己満足になる。

まずは相手のことを理解しようとする気持ち、これか思いやりなのではないだろうか。そして言葉を投げかける前に、「自分だったらどう思うだろう」と相手の気持ちになって考えることが大切だ。

目の前にいる相手にも顔の見えない相手にも、全てにおいて人としての思いやりの心を持って

接したい。

SNSの世界は、時には思いやりにあふれている。今世の中が新型コロナウイルス感染で危機にさらされている中、私は思った。

私は約2ヶ月間あまり学校にも行けず、自粛生活をし人との関わりをがまんしてきた。そんな中、さみしさをまぎらわしてくれたのが、SNSでの人とのつながりだ。直接会えなくてもすぐそこにいるような画面越しの会話。近くにいないてもつながっていられるうれしさがあつた。そこには人と人の心があつた。心と心がつながっていた。

世の中全体が同じ状況で、同じ気持ちで、周りの大切な人の命をうばってしまう事のないよう、しっかりと自粛生活をするこも、人を思いやるということだと感じた。

このように思いやりの形には自分以外の人のことを考える事が大切なのだ。たとえ目の前にいなくても、その人のことを深く考え、心と心で会話をするということが思いやりにつながるのだと思う。

私は将来、看護師になりたいと思っている。看護師は人と関わる仕事だ。病氣と闘っている人、病氣に負けそうになっている人、今にも心が折れそうなる人；いろんな心を持った人がいるだろう。心と心で向き合って、人の心の痛みが分かる思いやりを持った看護師になりたい。

思いやりは相手の存在を認め、人の気持ち、心を大切にすることだ。思いやりは目に見えなくても心に伝わる。私はそう信じている。一人一人が思いやりの心を持ち、いつか世界中が思いやりであふれたなら、きっと平和な世界になるだろう。